

イトトリゲモ	<i>Najas gracillima</i> (A.Braun ex Engelm.) Magnus	絶滅危惧I類
(環境省:準絶滅危惧)		イバラモ科
選定理由	生育地が限定されており、大部分の生育地で個体数の減少が著しいため。	写真(小宮健樹)
形態の特徴	葉は糸状で幅1mm未満、鋸歯があり、長さ10-30mm、葉鞘の先は切形で鋸歯が出る。県内のイバラモ属の中では見た目が華奢なグループである。花期は6-9月。果実は細長い楕円体で通常葉腋に2個付く。種子表面の模様はやや不明瞭で、長軸に対して縦長(四角形の長辺が種子の長軸と平行)となる。	
生態的特徴	貧栄養の溜池や水田などに生育する沈水性の一年草。	
分布状況	北海道～九州に分布し、岐阜県では県南中部と東部の低地に分布する。	
減少要因	水辺環境の改修工事、水田の改修工事や乾田化、水質悪化。	
保全対策	開発行為からの生育環境の保全。	
特記事項		
参考文献	角野康郎. 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版, 東京.	

文責:清水英彦